

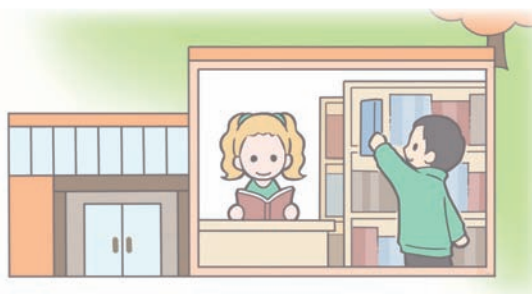
取り組む施策

湧学館や公民館などの社会教育施設を有効に活用するため、適切に維持管理をすることや地域の文化に精通した人材を講師として事業を行うなど、多種多様な町民の意欲に応じた生涯学習活動を行う機会の充実を図ります。

また、関係団体や町民と連携・協力しながら、持続可能な事業や地域づくりの実現に向けた取組を推進するとともに、保護者同士や親子がふれあう機会の創出と世代間交流を促進し、地域全体で子どもを守り育てる体制を構築します。

子どもを育てる環境は学校教育のみならず、地域社会との関係性も重要視されており、様々な教室や課外活動を通じた地域との連携を目指すとともに、団体や個人の活動を支援するため学習の機会を確保し、それらを地域へ還元できるような仕組みを構築します。

- ・施設の適切な管理運営
- ・地域人材の育成
- ・各種講座・教室の開催
- ・学習情報の提供
- ・読書活動の促進
- ・湧水塾の充実
- ・子どもを見守る活動の推進
- ・親子のふれあい活動の充実



関連する計画

- ・京極町社会教育事業計画
- ・京極町子どもの読書活動推進計画

関連 SDGs



【5-3】スポーツ活動の推進

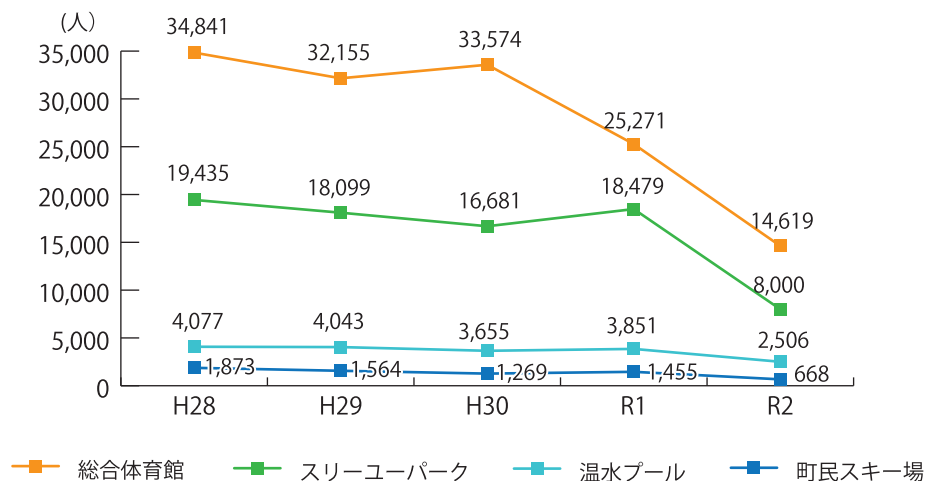
現況と課題

心身ともに健康で活力ある生活を送るため、スポーツ・レクリエーションへの関心がますます高まっています。スポーツは、健康づくりや体力づくりに寄与するだけでなく、人や地域間の交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、より良い地域社会形成の基礎となるほか、青少年の健全育成に重要な役割を果たしています。

子どもから高齢者、障がいの状態を問わず、多くの人々がスポーツ活動に関心をもち、参加しやすい機会を充実させ、生涯スポーツ社会の実現に向け、取組を進めていくことが求められています。

本町は、総合体育館などのスポーツ施設があり、老朽化が進んでいることから計画的な整備が必要です。また、高齢化や人口減少に伴い施設利用者は減少している中、需要は多様化しており、利便性を図ることが必要です。

【スポーツ施設利用者の推移】



【各種教室・事業】

| 事業名 | | 対象者 | 事業概要 |
|-----|-----------------------|-------------|--------------------------------|
| 教室 | ジュニアスポーツ教室 | 小学校1年生及び2年生 | 基礎体力づくりや仲間づくりを実施 |
| | 夏休みラジオ体操会 | 町民 | 健康保持や体力増進を目指す |
| | マラソン教室 | 小学生 | 大会に向けた練習機会 |
| | 水泳教室 | 小学生 | 泳ぐことの基本動作を学ぶことや夏を楽しく過ごすきっかけづくり |
| | 健康増進教室 | 高校生以上 | スポーツ施設を活用した健康増進事業 |
| | スキー・スノーボード講習会 | 幼児以上 | 町スキー連盟とともに、滑走技術向上を目指す |
| 大会 | 町民レクリエーション大会 | 町民 | 町民相互の親睦を図り明るい地域づくりを目指す |
| | 冬季町民レクリエーションのつどい | 町民 | 雪と親しむためのレクリエーションを実施 |
| | ジュニアマラソン大会 | 小学生以上 | 目標達成力を育む |
| | 羊蹄ジュニアクロスカントリースキー競技大会 | 幼児から中学生 | 後志管内最初の競技大会として、競技人口の底辺拡大を図る |

※令和2年度時点

【京極町スポーツ少年団の加入状況(令和3年3月31日現在)】

| 少年団名 | 幼児 | 小学生 | | | | | | | 中学生 | 合計 |
|----------|----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 計 | | |
| 野 球 | | 1 | 1 | 5 | 2 | 2 | 3 | 14 | | 14 |
| 剣 道 | | | | 1 | | 5 | | 6 | 3 | 9 |
| 陸 上 | | | 6 | 13 | 15 | 7 | 7 | 48 | | 48 |
| クロカン | 8 | 3 | 4 | 5 | 3 | 4 | 7 | 34 | 5 | 39 |
| アルペン(休部) | | | | | | | | | | |
| 合計 | 8 | 4 | 11 | 24 | 20 | 18 | 17 | 102 | 8 | 110 |

※複数団の加入者有り

【令和2年度京極町スポーツ協会加盟団体一覧】

| | | | |
|---------------|-----------|------------|-----------|
| ・野球連盟 | ・ソフトボール協会 | ・陸上競技協会 | ・スキー連盟 |
| ・卓球協会 | ・剣道連盟 | ・居合道部 | ・テニス協会 |
| ・バレーボール協会 | ・ゲートボール協会 | ・パークゴルフ協会 | ・フットサル協会 |
| ・バスケットボール協会 | ・スポーツ少年団 | ・柔道愛好会(休部) | ・綱引連盟(休部) |
| ・サイクリング協会(休部) | | | |

取り組む施策

総合体育館やスリーユーパークなどスポーツ施設の利用を促進するため、多様化するニーズに対応する計画的な整備を実施します。町スポーツ協会や町スポーツ推進委員など、スポーツに精通している方々とともに、スポーツに楽しむ機会を創出することで、体力づくりや健康の保持・増進に向けたスポーツ活動の推進を図ります。

また、幅広い世代の人々が気軽にスポーツを楽しめるよう活動団体への支援や、スポーツに触れる機会となるような大会や教室などの開催により、交流促進を図ります。

子どもたちが地域を基盤とし、正しいスポーツを計画的・継続的に実践するため、指導者の確保やスキルアップの支援を行います。また、多様化するスポーツ活動において地域間連携を推進し、活動の幅を広げることで、スポーツ人口の増加を推進します。

- ・スポーツ活動団体の支援
- ・スポーツ大会、教室の開催
- ・地域間連携の推進
- ・スポーツ少年団活動の充実
- ・施設の適切な管理運営



関連 SDGs



【5-4】 地域の歴史・文化の振興、交流活動の促進

現況と課題

地域文化には、地域社会を活性化させる力や教育分野においても大きな効果があるとされ、住民一人ひとりの個性を発揮させることや、他者への発信・協働による地域の活性化、文化芸術に触れることにより豊かな人間性と創造性を育むことにつながります。

京極の地名は、明治 30 年（1897 年）、四国の京極家が京極の地に開拓の鋤を入れたことに由来しており、その歴史や文化を後世へ引き継ぐための仕組みづくりが必要です。そのためには、文化講座や講演会などを通じ、文化芸術に触れる機会を創出することや、歴史展示の実施により、郷土の歴史に対する理解を深める機会を創出し、地域文化に対する意識を啓発する活動が重要です。

また、子どもの豊かな人間性や社会性を育むには、学校内外において体験活動の充実を図ることが重要です。

取り組む施策

地域文化や歴史を保存していくため、伝統文化を知り、触れることができる場を充実させるとともに、それを広く周知することにより地域住民や文化活動団体の文化活動に対する意識の高揚を図ります。

地域の豊かな自然や昔から親しまれている行事、町並みや地域に根ざした文化芸術活動を通じて、町民が地域への誇りや愛着により、地域社会の連帯感を深める取り組みを実施します。

子どもの豊かな人間性・社会性を育むため、親子都市協定を締結している香川県丸亀市との交流事業など、地域文化や歴史を後世へつなげていくための多様な交流活動を実施することにより、地域の絆と連帯感の構築を図ります。

また、地域の文化に限らず、異文化交流や国際交流を図ることにより、自らの生活や地域社会、文化に対する多様性を学ぶ機会を創出します。

- 地域文化に触れる機会の創出
- 地域社会の連帯感の形成
- 多様な芸術体験の推進
- 地域活動団体の活動促進
- 社会教育施設の有効活用
- 地域間交流の促進
- 国際交流の促進

関連 SDGs



基本目標6 みんなが主役なまちづくり(行財政運営)

【KPI 目標値】

| 指標名 | 現状値 | 目標値 |
|--------------------------------|--------------------------------|----------------|
| 財政力指数 | 0.76 (2019～2022年度指数の平均値) | 0.5以上 |
| 経常収支比率 | 79.1% (2020年度決算) | 70%以下 |
| 職員研修参加割合 | 61.0% (2020年度) | 70%以上 |
| 実質公債比率 | 7.2% (2020年度決算) | 15.0%以内 |
| 将来負担比率 | 0%[△51.4%] (2020年度決算) | 0%維持 |
| 財政調整基金残高 | 715,751千円[28.6%] (2020年度決算) | 標準財政規模の20%以上 |
| ふるさと納税寄付額 | 59,230千円 (2020年度決算) | 200,000千円 |
| オープンデータの公開件数 | 0件 (2021年) | 14件 |
| マイナンバーカードの普及率 | 30.9% (2021年) | 54.5% |
| 住民がマイナンバーカードを活用して申請するオンライン手続き数 | 0件 (2021年) | 26件 |
| 業務の見直し件数 | 0 (2021年度) | 各課1業務以上(自動化含む) |
| まちづくり懇談会参加者数 | 63人 (2021年度) | 120人 |
| 審議会等への女性登用率 | 26% (2021年度) | 30% |

【6-1】適切な行財政運営の推進

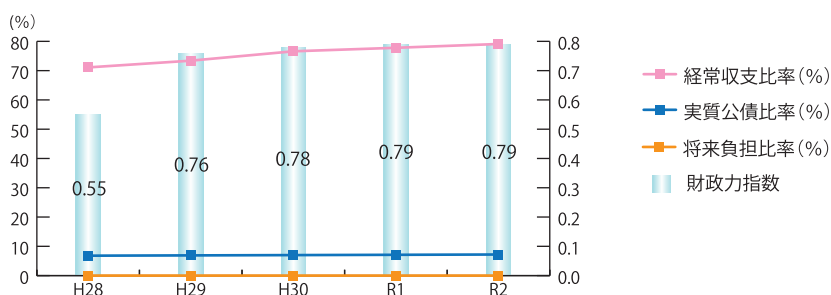
現況と課題

SDGsの理念に沿って、将来にわたり持続可能な町政を実現するため、着実かつ積極的な行財政運営を実施していくことが必要です。財政の運営にあたっては、少子高齢化の進行に伴う社会保障関係費が増加傾向にあることや、過去に整備した公共施設やインフラ施設の修繕・更新への対応が求められるなど、財政状況が一層厳しくなることが想定されます。歳入の根幹である町税は、大規模償却資産の減価償却により今後確実に減少するため、引き続きふるさと納税等の自主財源の確保や受益者負担の適正化などさらなる歳入の確保に向けた取組を進めていかなければなりません。

また、歳出においては、引き続き重点的に取り組むべき事業を見極めるとともに、事務事業の見直しや経常経費の削減に努めることで健全財政を維持しつつ、持続可能な財政基盤の確立が求められています。

時代の潮流を捉え、複数の自治体が抱える共通の課題に対しては積極的に広域行政を検討し、効率的・効果的とされるものは広域化するとともに、多様化する住民ニーズに応じた行政サービスを継続的に提供するため地域の実情を丁寧に汲み上げた施策を実施し、P D C Aサイクルに基づく適切な行財政運営を進める必要があります。

【財政状況の推移】



【町職員数の推移】

| | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 |
|----------|-----|-----|-----|----|----|
| 町職員数 (人) | 78 | 77 | 77 | 72 | 76 |